

事業名称	「ものづくり参加型企画」メイキング ドリーム オブ ハーモニー みんなのステージをみんなで作ろう！
団体名・代表者	ほのぼのさん 代表 澤崎美恵子
協働の相手方	文化国際課

目的	未来を担う子供達に、音楽で達成する喜び、目標に向かって作り上げる達成感を感じてもらい、自分たちがでるステージはどんな人がいて作られているのかを知ること、さらに深く本物のステージを感じて欲しい。一つのものを作り上げる忍耐力、協調性を感じ、他学年の交流の中で、小さい子供達と大きい子供達が仲良くなっていく一体感、充実感を知る。本物のステージが姫路市民の芸術の底上げとさらなる心の元気になると考える。
内容	公募で集まった子供たちと4回の音響講座で舞台の勉強をした後、5ヶ月間、歌とダンスのレッスンに励んだ成果を3月に発表する。伴奏は、市民の有志による大人たちの生バンド。
事業経過	8月 募集チラシ配布 10月 オーディション開催 11月、3月 4回の音響講座 11月～3月 歌とダンスのレッスン 3月 CD録音、動画撮影 3月12日 姫路駅前広場にて、成果発表
事業の効果	自分たちの最終発表の場となるステージとはを勉強した上で、3月の自分たちの成果発表のステージに上がった。本番は、司会、音響卓、BGM、マイクの各係を決め、自分たちの役割をしっかりと出来たと思う。子供達が目的に向かって、音楽を楽しみ、追求する姿は、現在の子供達に必要な不可欠な自主的な心を育て、さらに大人が音楽で子供達をサポートする。このことは、「音楽のまち・ひめじ」プロジェクトの目指す「地域の文化力の向上、交流機会の創出、次世代を担う子供達の育成」となった。また、大人が音楽でサポートすることにより、多世代交流にもなっている。
今後の展望	音楽をツールとして、多世代交流を引き続き測る。今回集まった子供たちに、引き続き、音楽の素晴らしさを大人が伝えられる場を作る。 さらに、芸術のコラボレーションを拡げ、多世代交流を深めたい。

### 【実施団体の事業総括・感想等】

事業の始まった頃は、まだコロナの影響もありましたが、成果発表の頃には、時間と共に世間の風潮もコロナ前に戻りつつあったことは非常に嬉しいことである。子供達が、ステージに大切な、ステージを作り上げる仕事をする人を知ること、さらにステージに対し、興味が湧いてきたことは、大きな成果だと考えている。今後も、音楽、ステージ、それに携わる全てのものに感謝を持ちつつ、本物のステージを子供達に伝えていき、今後も芸術が多世代交流の核になる事業を目指していきたいと考えている。

### 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

広く音楽・歌・ダンスに子供たちが触れる機会を作り、また舞台設営の裏方を経験できた今回の事業については、音楽文化の振興、次世代を担う子どもたちの育成という点で当課が推進する「音楽のまち・ひめじ」事業の大きな要素を取り入れたもので、一定の成果は得られたと考えている。  
令和2年度より提案型協働事業として採択されているものは、新型コロナウイルスの影響により芸術文化の発表の場が失われた子供たちのためのステージを実施する、という目的が主であることから、今後、新型コロナウイルスの影響がなくなっていることから、広い視野でより多くの参加者を見込めるような事業展開を期待したい。